

みことばを聞いて悟る

(マタイ7・24～29)

一、聞くことと行うこと

主イエスは、話を聞いている群衆、及び弟子たちのだれもが映像を思い描けるように、たとえを語られました。24節、25節です。《ですから、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を襲っても、家は倒れません。岩の上に土台が据えられていたからです。》と。イエスがおっしゃった《わたしのこれらのことば》は複数形で書かれていますから、前後関係から受け止めるなら、5章より始まった「山上の説教」で語られた数々のことばのことに なります。それらを指して、《それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます》と語られたのでしょうか。主が語られたのは、はたしてそういう意味だったのでしょうか。きようの箇所を読みますと、あるいは聞きますと、ヤコブ書の聖句を思い起こすのではないのでしょうか。《ヤコブ1・22みことばを行う人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけません。》です。こ

うして、「みことばは聞くだけではダメなんだ。行わなければいけない」と思ったりします。ですが、行いを強調するなら、パリサイ人こそ、みことばを聞くだけではなく、行っていたことになりません。パリサイ人こそ岩の上に自分の家を建てた賢い人になります。もちろんそれは主イエスが語られた趣旨に合いません。ということば、みことばを聞くことと行うことについて、もう少し掘り下げて考える必要があります。そうしませんと、イエスさまを信じたというものの、第二のパリサイ人になってしまつからです。

二、聞くことは悟ること

元の箇所に戻って、24節を見てまいります。《ですから、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。》と、主はおっしゃいました。私たちが注意をしなければならぬのは、みことばを聞くことと行うことの二つに分けてしまつことです。キリストのことばを聞くとは、実はみことばを通して神の御意思を悟ることです。キリストが語られたことばに、神の御意思を見いだすことです。そのためには、神の恵みの働きが必要です。言い換えるなら聖霊の働きが重要です。では、キリストのことばを聞くためには、どうしたらよいのでしょうか。

単純です。「主よ、私は信じたいのです。ですから、信じさせてください。悟らせてください」と祈ることです。そうしますと、上からの力が臨み、みことばと共に働かれる神の働きが分かるようになります。そして主イエスがおっしゃったことばの数々を行う者に変えられます。あるいは、主イエスの跡に続いて、自分が背負うべき十字架を負って、主にお従いして行く者にされます。それこそ、神のわざです。こうして、25節のようになります。《雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を襲っても、家は倒れません。岩の上に土台が据えられていたからです。》と。すなわち、何が起ころうとも神への信頼が揺るがない者とされます。

三、「肉」に生きる人の結末

では、みことばに聞きつつも倒れてしまふのは、どのような人なのでしょう。26節、27節を見てまいります。《また、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人にたとえることができます。雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。》しかもその倒れ方はひどいものでした。《とあります。キリストは、だれを指して語られたのでしょうか。前後関係から、一般の教会員ではなく、教師を指している

ように思われます。と言いますのは、24節から始まる主イエスのたとえは、その前とつながっているからです。21節、22節、23節をご覧ください。《マタイ7・21～23》キリストは、だれのことと語られたのでしょうか。この手の働きができるのは、一教会員ではありません。15節に記されている《偽預言者たち》です。おそらくマタイの福音書が発行された頃、「偽預言者」と言える伝道者たちが、マタイが属する教会の周辺にもいたのでありましょう。そういうわけで教会は、様々な形で近づいてくる「偽預言者たち」を排除する必要があります。それを行うのは、皆さま方です。

さて、元の箇所に戻りますが、26節、27節で語られている《わたしのこれらのことばを聞いて、それを行わない者》、《砂の上に自分の家を建てた愚かな人》、《雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いて(略)倒れてしまい(略)その倒れ方はひどいものでした》は、だれを指しているのでしょうか。前後関係から見ると、《偽預言者たち》と言えます。もちろん、教会員に関係がないとは言えません。私たちがみことばを聞いても主のみこころを悟らず、「肉」に生きるなら、《一テモテ1・19ある人たちは健全な良心を捨てて、信仰の破船にあいました。》ということが起きてまいります。主にあって気を付けたいものです。